

各位

全3ページ
登録速報(2019-210)
2019年 9月11日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2019年 9月11日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第12967号

名称：サターンバアロ乳剤

2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下を変更する。

- ①作物名「直播水稻」の適用雑草名「水田一年生雑草及びマツハヅイ」を「一年生雑草及びマツハヅイ」に変更する。
- ②作物名「直播水稻」の使用時期「は種直後～稲出芽前(ルビエの1葉期まで)但し、収穫90日前まで(入水15日前まで)」を「は種直後～稲出芽前(ルビエ1葉期まで)(入水15日前まで)」に変更する。
- ③作物名「直播水稻」のプロメトリンを含む農薬の総使用回数「2回以内」を「1回」に変更する。
- ④作物名「はとむぎ」の適用雑草名「水田一年生雑草」を「一年生雑草」に変更する。
- ⑤作物名「とうもろこし、らっかせい、いんげんまめ、だいず」の使用時期「は種後発芽前」を「は種後出芽前」に変更する。
- ⑥適用土壌および適用地帯を削除する。
作物名「いんげんまめ、だいず」の薬量を「600～1000mL/10a」に変更する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容 農薬登録申請書第8項中、以下を変更し、別紙2【変更後】のとおりとする。

- ①8)の箇条書き「・」を「①、②」に変更する。
- ②13)の「とくに」を「特に」に変更する。

別紙 1

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	プロメリンを含む農薬の総使用回数	ベンチカーブを含む農薬の総使用回数	
			薬量	希釈水量					
<u>直播水稲</u>	<u>一年生雑草</u> 及び <u>マツバ</u>	<u>は種直後～</u> <u>稲出芽前</u> <u>(1ピエ1葉期まで)</u> <u>(入水15日前</u> <u>まで)</u>	600～ 800mL /10a	70～ 100L /10a	1回	乾田・落水 状態で 全面土壌 散布	1回	2回以内 (入水前は 1回以内、 入水後は 1回以内)	
<u>はとむぎ</u>	<u>一年生雑草</u>	は種直後 (雑草発生前)	500mL /10a						全面土壌 散布
<u>にんじん</u>			600～ 1000mL /10a						
<u>とうもろこし</u>		は種後出芽前	800～ 1000mL /10a			2回以内			
<u>らっかせい</u>			600～ 800mL /10a						
<u>いんげんまめ</u>			600～ 1000mL /10a						
<u>だいず</u>			600～ 1000mL /10a						
<u>麦類</u>			500～ 750mL /10a				2回以内		

別紙2

【変更後】

- 1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 2) 作物の生育期に散布すると薬害の危険があるので絶対に使用しないこと。
- 3) 本剤の散布は土壌表面に所定の希釈液を均一にむらなく散布すること。
- 4) 本剤の使用は雑草の発生前に使用すること。雑草が発生した後の散布は効果が劣る。
- 5) は種後覆土はなるべく細かく砕いた土を用い、覆土深は2～3 cmにして軽く鎮圧すること。
- 6) 極端に土壌が乾燥している場合は効果が劣ることがあるので、適度なしめりを持つように注意して散布すること。
- 7) 麦類に使用する場合は、は種深度が浅い場合または砂土の場合は薬害を生じるので使用をさけること。
- 8) はとむぎに使用する場合は以下のことに注意すること。
 - ① 直播栽培で使用する。
 - ② 薬害がでるおそれがあるので、散布直後に降雨が予想される場合及び発芽直前には使用しないこと。
- 9) 直播水稻に使用する場合は下記に注意すること。
 - ① 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ② 落水後全面土壌散布の場合は落水を完全に行った後散布すること。また、出芽直前に散布し帯水する場合は薬害の危険性があるので、降雨が予想される場合には、播種後早い時期に散布すること。
 - ③ 稲出芽前に入水を行うと薬害を生じるおそれがあるので、出芽前に入水はさけること。
- 10) 本剤の散布の際には、隣接作物にかかると薬害を生じるので、散布液がかからないように注意して散布すること。
 - 11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないように注意すること。
 - 12) 散布器具は使用後十分水で洗うこと。
 - 13) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上